南十字星創刊60周年記念企画 座談会
「シンガポール日本人会の現在・過去・未来」

広報部では南十字星創刊60周年記念に、長年、日本人会の会員で貢献してくださっている方々にお集まりいただき座談会を開催いたしました。シンガポール日本人会の現在・過去・未来をテーマにそれぞれの思いを語っていただきました。

（実施日：2024年10月5日）

仲井もと子　音楽同好会代表、バイオリン講座講師
藤原忍　スペイン地中海料理講座講師
丸山幸子　日本人会フロントスタッフ
髙柳直明　広報部理事
藤本直哉　広報部部長

髙柳理事　南十字星の中に60周年記念の企画をたくさん入れて発行する予定です。今回は南十字星創刊60周年記念第一号企画です。この座談会記事が巻頭のお話になるので宜しくお願い致します。皆さんには日本人会の過去、現在、未来についてお話していただきたいなと思います。

まず最初にいつ頃にいらしたのか当時のシンガポールの様子をお願いします。

丸山さん　1994年にまいりました。あの頃は子供達が3歳と1歳で、3番目の子供がお腹にいました。1994年といえばナイトサファリができた年、高島屋さんがオープンした翌年です。

髙柳理事　フロントスタッフになったきっかけっていうのは？

丸山さん　婦人部さん（今の社会貢献活動部）のボランティアに申し込んだのですが、同時にフロントスタッフも募集をされていたのを後から知り、ご縁があってフロントで働くことになりました。2013年から勤務しています。

仲井さん　フロントの皆さんは当時、受付のお仕事を身内のボランティアでされているというお気持ちのように感じました。

髙柳理事　何でボランティアをやろうとなさったんですか？

丸山さん　1994年に来星してからずいぶんと月日が流れ、シンガポール生活にもだいぶ慣れてきていました。ボランティアとしては、子供達の学校行事や博物館ガイドの経験もありましたが、ボランティア活動を通して社会貢献ができれば、また、これからシンガポール生活が始まる方々の何かお手伝いができれば、という願いもありました。

(左から)髙柳直明理事、丸山幸子さん、仲井もと子さん、藤原忍さん、藤本直哉部長

仲井さん　私がこちらに来たのは80年代です。

髙柳理事　80年代でしたら、まだバブル期ですね。その頃のシンガポールってどんな感じだったんですか？

仲井さん　そんなに都市の全体的なイメージは変わっていないんです。走っている車はパラパラだったのですが、ちゃんと50年先を見据えた都市計画が出来ているのを強く感じました。

藤原さん　都市計画としてはシンガポールは素晴らしい国ですね。

丸山さん　マリーナベイのあたりは海でした。現在、ヘリテージサイトとしてフラトンベイホテルの一部となっているクリフォードピアという船着場からは、クルーズ船「チェンホー」が出ていました。その先にマリーナバラージができ、水資源とサステナビリティについて学びました。マリーナベイサンズが完成して、一層国の発展が目に見えてきました。将来へ前進していく計画がいつもシンガポールにはありますね。

左手がクリフォードピア　1990年ごろのシティーの景色（出典1）

1994年ごろ、チェン・ホークルーズ船内で無料配布されていたチェン・ホーの写真の載ったハガキ

1994年ごろ、ナーサリーの入っていた建物（出典2）

藤原さん　私は先ず1998年に来ました。きちんと駐在として来たのは1999年1月です。主人がフランス人ですのでパリから来ました。2年間だけシンガポールで生活するという約束で主人に付いて来ましたが既に26年もシンガポールで生活をしています。人生分からないものですね。

髙柳理事　当時はどんな感じだったんですか？

藤原さん　当時は今よりも時間がゆったり流れていました。のどかだったと言うか。私がとても残念だと思うのは現在ION がある場所はとても美しい緑地でした。日曜日にはメイドさん達の憩いの場であり、ピクニックをしていたり、歌っていたり、街中の1等地でとても平和な素晴らしい光景がもう見れないのは残念ですね。

髙柳理事　日本人会にかかわったきっかけはどうですか。

仲井さん　私は駐在員の家族としてニュージーランドから来ました。主人は日本人で海外をあちこち住み、結婚前はバイオリニストとして仕事をしていたのですが、子供が2人でき仕事を辞め、子育てだけをしていました。それで私も丸山さんと同じくボランティアでもしようかなって。適当な場所は日本人会しかありませんでした。当時、パートの就労ビザ取得は不可能な時代でした。許可しない会社も殆どでした。休日は家族揃って会館に来て、一日中いましたね。

0才から入場可能な「子供のためのクラシック入門コンサート」
NHK交響楽団コンサートマスター　山口裕之氏（演奏当時）
同じくセカンドバイオリン奏者　木全利行氏
シンガポール交響楽団次席チェロ奏者　グア・ハオ氏
（仲井さんよりお写真ご提供）

髙柳理事　休日は日本人会にいらっしゃっていたのですね。

仲井さん　はい、特にこんなに立派な新会館ができてからは。毎月送られてくる情報いっぱいの会報誌をまつのが楽しみでしたね。夏まつりは旧会館時代はこの敷地で行われていました。こじんまりとしていましたが、とてもアットホームな雰囲気でした。日本人会役員の方達も総出でお祭りのように、金魚すくい、射的、ヨーヨー釣り、お面を売ったり、りんご飴などを担当されていました。日本の文化を海外で育つお子さん達の為に、体験させておきたい、というお気持ちもあったと思います。チャリティバザーも各会社ごとに手作りの作品を出し合う。早朝6時頃から購入のために並ぶなんてこともありました。我が家で毎年飾る素敵なクリスマスリースは〇〇建設の奥様方が丹精込めて作られた作品です。

丸山さん　私は末の子供が日本人学校に通うために日本人会の会員になりました。また、当時は日本人会が管理をしている敷地でソフトボール大会や運動会が行われていて利用の予約は日本人会会員であることが条件でした。日本人会に入会してみると、スポーツや手芸、お料理の講座もあり、掲示板で情報交換ができ、時には友達や家族とラウンジでまったりと時間を過ごしたり、シンガポール生活が豊かになる手助けをして下さっているようでした。楽しいことばかりでなく、心のケアの催しもありました。どんなに楽しくて便利でもここはやはり外国、精神的に疲れてしまうのも不思議ではないんですね。心と身体の健康を保ちながら海外生活を送るための支援もされてきましたね。

過去を懐かしみつつ、座談会の様子

髙柳理事　そういう流れがあってクリニックとかいろんなイベントとかできたのかもしれませんね。

仲井さん　旧会館の時にクリニックがあったかは覚えていないのですが、新会館設立後は急に人が集まるようになりましたね。みんなが安心して集まる場所だった。

丸山さん　昔の日本人会建物では週末に床屋サービスがあったのをご存じですか？日本の運転免許をこちらの運転免許に書き換えるサービスのお手伝いもされていたそうです。私がフロント勤務を始めた2013年にはないサービスでしたが問い合わせは時々来ていました。

藤原さん　日系企業の方は直接日本人会に入会できますが、私は主人がフランス人ですので日本人会に入会する事を考える機会が全く無かったのです。シンガポールに来てからフランスでそれまでやっていた通訳、ガイドの仕事ができないので、子育てをしながら自宅でお料理教室を始めました。そこに参加して下さった方が日本人会でコンピューターの講師をしてらして、苦手なコンピューターをどうしても習いたいと。そこで「じゃあ日本人会に入会すれば良いのよ」と。入会には承認の方が2人必要で、お料理教室に参加してくださった方々が書類迄用意してくださってサインもしてくださり晴れて日本人会会員になれました。それまでは会員の友人に何度かどんぐりに連れて来てもらってましたが、その頃のどんぐりは子供達にはお座敷もあって素晴らしく楽しい所でした。

フランス語で商品を説明する様子（藤原さんよりお写真ご提供）

2001年、スペイン料理教室をするきっかけになったポットラックパーティー
（藤原さんよりお写真ご提供）

丸山さん　抜群においしい日本のオムライスと焼きそばがありましたね。あの頃が懐かしいです。

藤原さん　タクシーに乗ってここに来れば和食が食べられて、子供達もお座敷の部屋に入れたらそれだけで満足してましたね。確かお座敷が3部屋ありましたね。

丸山さん　掘り炬燵のようで、我が家の子供達も大好きなお座敷風個室でした。

藤原さん　まだシンガポールで今の様に日本食屋さんが発展していない頃ここに来るのが楽しみでした。そして日本人会に入会してみたら行事が沢山あって、子育て中の頃は嬉しかったですね。ここで習い事もして新しい出会いがあったり、ありがたいことだと思います。私は現在、講師をさせていただいてますが、生徒さん達にお教室で友人を作って下さい、情報交換をして下さいと伝えてます。

仲井さん　文化交流会みたいな。ほんと、大事なことですよね。街を歩いている人達は日本人みたいな顔なんだけれども、言葉が通じないがストレスだった。2000年頃にある新聞社が全世界の海外駐在の奥様達にアンケートを取ったら、欧米よりもここシンガポールが一番ストレスを受けている、というのを掲載していました。

髙柳理事　その当時はそういう感じだったんですね。今はどう思われますか？

仲井さん　若い方はお付き合いの仕方が変化してきている。

藤本部長　私の周囲を見ていても、日本人会のつながりを活用しきれていない方が多いかもしれないです。

藤原さん　是非スペイン料理参加を勧めて下さい。来てくださったら楽しい事が増えると思います。必ず友達ができます。

仲井さん　求める内容ががらっと変わってきていますよね？新しい世代で。やはり前とは違いますね。

藤原さん　とても違うと思います。

髙柳理事　今まではサポート的な感じだったんですよね。

丸山さん　シニアの方で国際結婚の方や何十年も住んでらっしゃる方々は結構いらっしゃいます。いくつになっても、社会とつながっていかれるシニア向けの何かがあるといいのかな、と思います。夜ラウンジにいらっしゃる方もいますし。テレビではNHKもローカル局も観られます。マイリビングルームという感じで本を読んだりテレビを観たり、思い思いにあのゆったりした空間を楽しんでいらっしゃいます。

髙柳理事　ラウンジはどういうところがよいんですか？

仲井さん　格式の高い会員制クラブって、ああいうラウンジがありますよね。お客がはいるはいらないに関係なく。

丸山さん　広い空間にソファーがあって、くつろげますね。

仲井さん　夜はシンガポーリアンのグループの方とか結構いらっしゃってますよね。駐車場が無料ですし、飲食もサービス料がかからない。車でぱーっときて4階にさっと気楽にあがって。カラオケもあるしね。

髙柳理事　**南十字星に思いとか、思い出とかありますか？**

仲井さん　以前は南十字星ってニュースレターと別々に作っていましたよね。スタッフは大変だったと思います。

丸山さん　思い出というと、写真投稿で賞をいただいたことがあります。構図がめずらしかったので選んでいただき、とても嬉しかったのを覚えています。

2017年シンガポール魅力部門賞
作品名：「中年っぽい少年達　(ウェットマーケット編)」
撮影場所：ファーラーロード ホーカーセンター

髙柳理事　**南十字星はこれからもずっと続いていくんですけれども、そこに求めるものって何かありますか？**

丸山さん　「南十字星」を愛読書と呼んでいる人もいます。

藤原さん　シニアの方が増えてますから連載の読み物があっても良いかもしれませんね。

仲井さん　子供向けにも連載読み物などあるといいかも。

丸山さん　電子版もありますが、私の世代ですとウェブサイトから南十字星のページを探し出して読む方は少ないようです。

藤原さん　やはり紙の感触とかですね。これだけ図書館を利用者している人が多いのですから。

仲井さん　子供向けの工夫、頑張ってほしいですね。

藤原さん　物語でしたらバトンタッチ制でも面白いですね。

髙柳理事　**今後、こうありたいっていう話をお願いします。**

丸山さん　フロントで入退会などの業務をしていますが、海外から転勤されてきた方も結構おいでになるのですが、シンガポールの日本人会の規模に驚かれる方が多いです。4階建てでクリニックがあり、習い事ができて日本人墓地の管理もされていて。建物も素晴らしいですが、それだけでなく、シンガポール日本人会は100年以上の歴史があります。そして先人達の思いが様々な文献に記録として残されていますが、どの時代も将来への夢があったと思います。その思いを受けついで職員も利用者もシンガポールの日本人社会史の一部としてこれからも成長していかれればと思います。

藤原さん　こんなに親日家のシンガポール人が増えてますから、現地の人に向けてもっと日本文化の発信をできるでしょう。その工夫はしなくてはダメですね。余裕あるスペースでゆったり時間を使える場所を提供できると言うのも日本人会一つの自負として。

仲井さん　がんばって欲しいですね。

丸山さん　これからの世代はソーシャルネットワークなどでますます世界と繋がっていくことでしょう。シンガポールで英語と母国語を選んで使うように、日本人会では日本語と英語も個人の選択で使うようになる日が来るのだろうか、と思ったりしますが、そのような中でも日本人会は日本の良い慣習や文化を継承していくのが役目なのかとも思います。

藤原さん　やはり日本人会は日本語のベースで良いと思います。

丸山さん　会員の方は国籍を問わず、日本の良いものを求めているから、ちょっと遠くても来館されるのだと思います。7万冊以上の書籍を誇る大人気の図書室や伝統文化関連のイベントやユネスコ無形文化遺産の「和食」、或いは日本独特のおもてなしの心など。

藤原さん　サスティナビリティのアピール。上にソーラーシステムをちょっと置いてみるとか。

藤本部長　**日本人会という大きな括りでお話を聞いていたんですけれども、せっかくなんで皆さんの、個人のこれからの10年をお話しください。こんなことにチャレンジしたいなとか。60周年。過去10年、今後10年みたいな感じで。**

仲井さん　以前は日本から有名な演奏家、第一線で活躍中の方たちをお呼びし、子供向けコンサートを定期的に開いていました。また復活していきたいなと思います。小さな頃にとびきり上質な音楽にふれさせてあげたいなって。日本ではそういうチャンスも探せますがここにはそういうものは少ないから。

日本人会子供向け講座、“アンサンブルCuore(クオレ)”の演奏風景

開催26回目を迎えた年末恒例のアンサンブルコンサート
（仲井さんよりお写真ご提供）

現在、会館ロビー側の花壇内にある銅像、森の中でバイオリンを弾くニンフ。“ハーモニーワールド”屋田光章（おくだみつあき）1997年作。
屋田氏の作品、ニンフの持っているバイオリンと弓は本物の楽器にコーティングをおこなった物です。

（文責・写真：仲井さん）

藤原さん　シンガポールの今迄の功績を見るとリー・クアンユーさんは本当に凄い方であったと。医療が高額なのでいつまでこの国にいるか分かりませんが、この国のスピーディーな発展を見る事ができてとても楽しかったです。これからの10年の変化も楽しみです。

丸山さん　シンガポール建国の父リー・クアンユー氏の時代にこの地で家族が成長することができました。過去10年健康が守られ、色々な方から沢山のことを学び、シンガポールで育った子供達は社会人となって、全てが恵みです。これからも願わくばシンガポールベースの生活を続け、日々の学びをシニアライフに生かしていきたいです。「許すが忘れない」という有名な言葉がありますが、日本との間に悲しい過去があるにもかかわらず、シンガポールには親日家が多い印象があります。発展を続けるホストカントリーをリスペクトし感謝しながら、次のまたその次の世代の子供達が涙と笑いの向こうにある未来に夢と希望を持って歩んでいかれるよう応援することも、おばあちゃんへ成長していく私のこれからしたいことのひとつです。

仲井さん　リー・クアンユー氏も親日家だったとか。子供達は国の未来だ、その宝物を日本人は大切に育てていかないといけない、と話されていましたね。

髙柳理事　1時間いろいろお話を聞かせていただき、とても勉強になりました、とても楽しかったです。

編集後談

広報部理事の髙柳でございます。

創刊60周年という節目に担当理事という大役、精一杯取り組んでまいります。

これまで記念の周年の年には別冊の記念号を発行しておりました。ただ、それは有料のため、多くの会員の皆様にはお読みいただく機会が少ない状況でした。今回編集部で皆さんに読んでいただく記念号を発刊したいという思いから、他の雑誌同様に毎月発行の南十字星の中に記念特集を組んでいくことにいたしました。

石川浩司駐シンガポール日本国特命全権大使より「南十字星創刊60周年に寄せて」をご寄稿いただきましたこと心よりお礼申し上げます。

今回は特集第一弾として長きにわたって日本人会を支えていただいた3名の方にインタビューさせていただきました。存じ上げない内容も多く、大変興味深くお話を伺いました。仲井様、藤原様、丸山様本当にありがとうございます。

今月号をスタートに毎月60周年記念特集を発信していきます。また60周年記念号を機にレイアウトと文字サイズを変更しております。

これからもご愛読よろしくお願いいたします。

広報部理事　髙柳直明

出典1,2：Singapore Facts and Pictures 1990
Published by the Ministry of the Communications and Information.10p and 106p　（丸山さんよりご提供）